

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500029		
法人名	有限会社メディカルサービス有田		
事業所名(ユニット名)	グループホームゆりのき苑やまち		
所在地	和歌山県有田市山地44		
自己評価作成日	平成25年2月21日	評価結果市町村受理日	平成25年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/30/1/ndex.php?act_i_on_kouhyou_det.ai_2010_022_ki_hon't.rue&ji_gvsovcQd=3091500029-00&Pr_efQd=30&Versi_onQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成25年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開苑から6周年を迎えるが職員の入れ替わりは殆どなく利用者及び家族との信頼関係が構築されている。また利用者同士、喧嘩も時折見られるものの家族のような関係が出来ており和気あいあいと毎日を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

尊厳をもってその人らしく生活できるホームを目指し、様々な場面で質の高いケアが実践されている。食事はその都度利用者の希望を考慮して献立を作成し、毎日の買い物によって全て手作りで提供しており内容も豊かである。看取り介護に積極的に取り組んでおり、家族への心配りから死後処置の研修を実施するなど体制が整えられつつある。SOAP方式によるアセスメントを継続してきたことにより、職員には利用者の心身の状況や課題について常に原因や解決策を検討する姿勢が定着しており、介護計画を通じて実際のケアに反映されている。管理者は職員に対して自然体で接して受容し、励ましと指導により確かな信頼関係が築かれている。職員は誇りと謙虚さをもって業務に臨んでおり、専門職として成長していくこととする強い意欲が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“自由・尊厳。歓び”のある生活が出来るよう独自の理念を掲げ、管理者と職員は共有し実践に繋げている。	リビングに理念である「自由・尊厳・歓び」を記した額を掲出している。理念の目指す利用者本位のケアができていないかを、ミーティングを通して常に確認している。管理者からの働きかけで、職員が互いに注意し合い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに苑全体で参加し、地域の人々との交流を図ることが出来より一層、地域とのつながりが深くなった。今後も地域の一員として交流が図れるように努めていく。	徒歩圏内の老人ホームでの祭りに地域の方々が参加している。今年からこの祭りの運営に苑として運営に加わり、輪投げと飲み物販売コーナーを担当した。職員は準備会から参加し交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉系の学校の実習の受け入れを積極的に行い、人材育成に力をいれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議にて苑の実情及びケアサービスの取り組み状況を報告し話し合いを行っている。サービスの質の向上に活かしている。	入居者・家族・市職員・区長らで構成する推進会議を組織しているが、今年は祭りの準備会を除いて会議を持つことができなかった。構成員とはそれぞれの機会に出会い、報告や話し合いがなされ理解を得ている。	運営に多様な情報や意見が反映されるよう、定期的な開催が望まれる。構成員への負担や参加者数にこだわらずに開催を継続することで定着し、実効ある会議となるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議に市担当者に参加してもらい、助言を受けたり情報交換を行い協力関係を築いている。	日頃から市職員の訪問があり、状況報告をしたり協力関係が継続している。併設の居宅介護支援事業所と共に、生活保護の利用など権利擁護のための相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は、内、外研修に参加をし身体拘束とはどのような行為であるか理解が出来ている。日中、玄関の施錠をしない等身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロを実現し、出入口は開放されている。言葉や態度が行動制限に繋がらないよう配慮したケアに努めている。車いすは移動の道具であることが徹底される等、利用者それぞれが居心地よく過ごしている。徘徊行動には職員の付添いとGPS機器により、利用者の負担にならない見守りがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は、研修等に参加をし虐待についての知識を持ち利用者への対応に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当苑利用者に制度の対象がいる。管理者及び職員は制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約時十分な説明を行い、利用者及び家族より理解・納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情マニュアルを作成し、全ての職員が対応ができる体制を整えている。意見・要望には迅速に対応している。	入居者・家族に対して職員の気配りと声掛けが日常的になされているため、意見や要望がよく把握されている。苦情に対しては管理者が適切に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、カンファレンスを行い自由に意見を出す機会を設け、反映させている。	職員が意見や要望を書き留めるノートで情報を共有し、必要に応じて対応のためのミーティングを開催している。利用者へのアクティビティは、職員の意見・企画が尊重され自由に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に対し資格取得を促し、向上心を持って働くことによりサービスの質の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、内外研修に参加または、自己研鑽し、知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流を図り情報交換し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを把握し共感的理解を心がけ、抱えている不安に気づき解消していけるよう努めている。また本人が安心を確保するための関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安なこと、要望等を把握し支援に努め、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を共有し利用者及び家族にとって必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対し、尊敬の念を持ち喜怒哀楽が共に感じられるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族が自然に関われるよう環境を整え、家族の意向が自然に引き出せるよう努めている。また本人と家族の絆を大切に、共に本人を支えていく関係を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を大切にし関係が途切れないよう支援している。	墓参・美容室・甘味処・買物・自宅宿泊など、入居者が希望する外出が行なわれ喜ばれている。知人の訪問が少ない時には職員が来苑を働きかけるなど、関係維持のため積極的な支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流を見守り、一人ひとりの個性を見極め交流が図れるよう支援している。また、居心地の良い距離感を大切にし対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子を見守り、必要に応じ助言等行う様に、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴を把握し、一人ひとりの思いに耳を傾ける。また表情や言動を観察し気づきを職員間で共有、意向の把握に努めている。	SOAP方式を採用し1日3回の記録ができるアセスメントシートがよく機能し、職員が現場で考えて対応できている。アセスメントシートは全職員の閲覧が徹底され、必要に応じてミーティングを開催して意向の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を把握し、現在の状況に合った暮らしが出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報を共有し、利用者のあらゆる面の変化に気づき支援している。一人ひとりの生活リズムを把握し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録を活用し、本人の状態を把握し、本人がよりよい環境にて生活出来る様支援している。また家族の要望を聞き、現状に即した介護計画を作成している。	利用者の目指す生活を実現するため、担当者により「個別介護計画評価票」を用いて介護計画が策定されている。モニタリングは6か月に1回定期的実施されている。具体的な介護の方法にも家族の要望が反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の共有を図り、個々の状態を把握し実践、介護計画に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況変化を察知し本人のニーズを的確にとらえ、柔軟な対応が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りに苑全体で参加し、地域の人々との交流を図っている。また、地域のスーパーを利用し馴染みの関係を作り、社会との繋がりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との信頼関係が構築されており、往診日を利用者は楽しみにしている。	かかりつけ医や専門科の受診は家族に依頼しているが、家族の支援が困難な場合や利用者の状態・症状によってホームで受診を支援している。利用者と主治医との関係が良好で、2週間に1回の往診を楽しみにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の健康チェックを行い、次回のDR往診時の報告時の助言や状況説明に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者と情報交換を行い、受け入れ体制を整えることで早期退院が出来る様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族と話し合い看取り介護希望の際は書面にて説明し、その都度方針及び方向性を話し合い記録している。	利用者家族から苑での看取りの希望が寄せられており、意向確認の書面を交わしている。医師の指導と看護師の連携が整えられており、苑として積極的に支援しようとする姿勢が伺える。死後の処置について研修を実施するなど、職員も熱心に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応及び連絡体制を掲示している。また、職員は救急救命講習を受講し実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、定期的に色々なケースを想定し避難訓練を行い、避難方法を実践し身に付けている。近隣住民の参加も得て協力体制を築いている。	台風での出水を経験し火災と水害を想定して年3回の訓練を実施し、新たに非常呼び出し訓練を計画している。避難場所として近隣の老人ホームの協力が得られている。近隣とは組織的な協力体制はないが、ゴムボートの提供など個別の支援体制が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格の把握に努め、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないように注意し対応している。	ホームの理念である「自由・尊厳・歓び」を実現するため、利用者一人一人を尊重した関わりを丁寧に行っている。職員の言葉使いや態度も親しみと節度が備えられ、良好な関係が伺われる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを把握し共感的理解を心がけ、抱えている不安に気づき解消していけるよう努めている。また本人が安心を確保するための関係作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースにて対応するのではなく一人ひとりのペースを大切に、利用者の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理、美容院に通い季節に合った衣服が着用できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し、メニュー作りに参加してもらい本人の力に合わせ一緒に準備や片付けをしたりしている。	毎日の食事は「食べたいものをその都度作る」とし、利用者との相談によってメニューを決め、買い物にも毎日出かけ、すべてホームで調理している。実施献立を正確に記録し、バランスのとれたバラエティ豊かな食事となるよう配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取表を活用し健康面をサポートしている。食事摂取の減少時はDRに相談し助言及び栄養補助飲料を取り入れ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性は職員全員理解が出来る。口腔ケアの習慣のない利用者に関して口腔ケアの必要性を説明をし促しているが、全員行えていない現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用い一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレ誘導等を行っている。排泄の失敗を防ぎトイレで排泄が出来るよう支援している。	トイレでの排泄を基本とし、日中は布下着とパッドを用い、夜間は十分な睡眠のためリハビリパンツを併用して対応している。誘導の声掛けも適切で、よく配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬のみに頼らず、自然に排便が確認できるよう飲食物の工夫及びホットパック等施行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい時に入浴が出来るよう準備を整え、本人の希望やタイミングにあわせ対応している。	毎日、希望した時間に入浴できるよう支援している。利用者によっては夜間の入浴にも対応している。入浴を嫌う利用者には声掛けのタイミングや時間帯を変えたり、シャワー浴、足浴、清拭などで丁寧に関わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンにあわせ対応を行っている。日中活動を促し生活リズムを整え昼夜逆転にならない様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬処方をファイル化し状況を把握している。症状の変化時はDRIに報告し本人に合った服薬であるか常に観察し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとに行事を設け参加し気分転換等の支援を行っている。また、一人ひとりの得意分野を把握し活躍できる場の提供を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	いつでも外出が出来る様、玄関は施錠せず開けている。本人の要望に沿ってドライブや買い物等定期的に外出の支援を行っている。	毎日の食事材料の購入、近くの神社への散歩、外食などで外出の機会を設けている。申し出や訴えの少ない利用者にも外出の機会が提供できるよう、気配りがなされている。リビングに続く陽当たりの良いテラスが活用され、戸外で過ごす時間が確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に合わせお金を所持してもらい、購入の希望を伺い、必要性を見極め助言するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族には前もって協力依頼を行い、本人の意向に合わせ電話での交流を支援している。郵便物は本人に手渡し所持してもらい手紙等のやりとりを援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の不快や混乱を招くような刺激等を排除し、居心地よく生活を送れるよう季節のタペストリー等飾り対応している。	家庭に普通に置かれている物品で設えることを基本に、明るく清潔で快適なリビングが整えられている。季節ごとに掛けかえる職員手作りのタペストリーなど、装飾にも気を配っている。季節の生花を利用者と共に活かすことで、季節感と生活感が生まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には一人ひとり思い思いに落ち着き過ごせる場所があり自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物品を置き本人が居心地よく生活ができるよう工夫している。	職員は居心地の良い居室作りの大切さをよく理解している。入居前に自宅を訪問して枕、布団、タンスなど持込の物品について助言するなど、積極的に支援している。希望により畳敷きにも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体能力に合わせ、出来ない所は手伝い、手すり等活用し出来る所は自力にて安全に行えるよう支援している。		